

ピクトグラムで安全避難

知を生かす 地域と大学



足守小での火災訓練で「災害対応ピクトグラム」を掲げる三宅校長＝1月28日、岡山市北区足守



中村俊介助教

「歩いてこちらへ Walk here」掲げられたのは日本語と英語による案内とともに、手を挙げた人と歩み寄る分デサインされている。1月28日、岡山市足守小（岡市北区足守）での火災訓練。文字とマークで行動を促す災害対応ピクトグラムが初めて用いられ、指示役の三宅校長が語る。聴き取れない児童が次々と集まった。

混乱が生じたら大規模災害現場で安全避難誘導ができるように、ピクトグラムを開発したのは、川崎医療福祉大医療福祉デザイン学科（数市松島）の中村俊介助教が率いるプロジェクトメンバーだ。

この日の訓練に参加した中村助教が「ピクトグラムは言語や人種、障がいにかかわらず、どんな人にも分かりやすいものを目指している。一などり取りすると、児童からは『進む方向がと目で分かった』。火事や災害現場であると安心、といった感想が寄せられた。誕生のきっかけは2016年の夏。

「ピクトグラム」言語を
用いず内容を伝える
手段として考えられた文字、視覚記号。日本では2014年の東京五輪の際、外国人や障害者を誘導するに分かりやすく伝えようと開発された。トイレや救護所などで日本工業規格（JIS）現日本産業規格に適合した図柄もある。出口に貼け込む様子を表した「非常口のマークは国際標準規格となっている。



災害対応ピクトグラムの改善点などを学生らと話し合う中村助教（左から2人目）＝5日、倉敷市松島の川崎医療福祉大

川崎医療福祉大医療福祉デザイン学科 岡山市消防局

火災現場で聴覚障害者の避難誘導がうまくできなかったとして、岡山市消防局の被災規模さん（88）は当時北消防署特別高度救助隊所属「からびと目」で避難を促す絵文字を作りたい」と相談を受けた。東京五輪・パラリンピックも踏まえ、不特定多数が集まる場所でのNBC（核、生物、化学）災害も想定して提案だった。

超高齢社会の中、防災と医療福祉の連携の重要性は高まっており、同科の研究テーマの一つ「ユニバーサルデザインの幅を取り入れ、社会課題を解決しようと引き受けた。

学生らと一緒に消防隊員や外国人の意見を聞き、「歩いてこちらへ」をはじめ、有害物質に汚染された衣服処理の服を袋へ」、傷病の程度によって

治療の優先順を決めたりアジシを示す「タグをつける」の計3種類を制作した。

子どもや外国人なども瞬時に伝わるアイコンが評価され、17年1月には総務省消防庁の消防防災科学技術賞優秀賞を賞。お墨付きを得たことで、岡山県の消防局・本部を手に始めに全国へと広がった。西日本豪雨などの災害が相次いだこともあり、今では26府県80箇所の消防本部や消防局、イオンモール岡山、天満屋岡山店ははじめとした県内外の企業・団体が進む。

防災教育への活用を視野に、20年3月には「歩いてこちらへ」の折り畳み式の簡易版を開発した。岡山市教委に採用され、11月に市立全小中学校

と設定ことも。幼稚園、岡山後援館高校の計198校園に配布。足守小での訓練でもこの簡易版が使われた。

今月5日には、プロジェクトメンバーの会合が川崎医療福祉大であり、岡山市消防局の視覚支援も受け付け、中村助教が生徒らに訓練の状況を説明し、改善点を尋ねると、全方位や腰に付ける簡易版の改良が必要。「又言をシンプルに歩いてほしい」と提案してほしいか、などの意見が上がった。

最終目標は、岡山発の世界標準。

中村助教は、多くの意見や耳を傾け、改善していった」と意気込む。まずは国内の統一表示を目指し、学生での模索は続々。（山内悠紀子）

は「歩いてこちらへ」の簡易版を新たに設けた。

用途も広がっており、19年に日本各地で開かれたラグビーワールドカップの一部会場、岡山市であった20万国・地域（G20）保健組合会でも配備された。

兵庫県立大大学院の室崎益輝教授（防災計画）は「外国人や障害者など誰にでも伝わる点が優れている」と評価する。



岡山市消防局中消防署特別救助隊 渡辺敏規隊長

全国統一表示目指す

女性に避難を伝える方法に苦慮した際、ヘルメットに記された「消防局」の文字を示し理解してもらった経緯が基になっている。

NBC災害やテロも想定し、初動でパニックを起こさない避難誘導ツールが必要と考え、出身校である川崎医療福祉大のデザインの専門科に打診した。中村俊介助教の下、学生らは災害対応ピクトグラム、NBC訓練にも参加し、全国初の災害対応ピクトグラムができた。

応用申請は少しずつ増えているが、全国統一表示を目指している。前回の東京五輪を契機に誕生したピクトグラムは美術評論家らが著作権放棄し「世界に広がった。災害対応ピクトグラムも使用料は無料となっており、さらなる普及に向けて大きく連携したい。

種類増えデザイン改良 初版完成後も「進化」。

川崎医療福祉大医療福祉デザイン学科と岡山市消防局で共同開発した災害対応ピクトグラムは、3種類の初版が完成した後も「進化」を続けている。

最初の改良は2018年11月。衣服処理後に身に付けてもらう「ポンチョを着る」

を加えて全4種類とし、人が持たなくても自立できる立体的バルーン形、平面のポップアップサインなどを考案した。さらに日本工業規格（JIS）に適合させることで普及を図ろうと、文字を大きく、デザインを簡潔にした。20年3月に